

## ニホンスッポン *Pelodiscus sinensis* (Wiegmann)

### 【選定理由】

各地で養殖されていた個体が逸出しており、現在確認されているのが在来集団なのか移入集団なのか明確に確認されていないことから、情報不足とされた。

### 【形態】

甲長は普通 130～180mm だが、まれに 250mm 近くに達する個体も見られる。体の背面は灰褐色。背甲は扁平で鱗板を持たず、柔らかな皮膚に覆われる。鼻孔の先端が強く突出し、肉質の口唇を持つ。指趾間に水かきがよく発達する。日本産の個体の多くは、中国や台湾産の個体に比べ、幅の広い甲を持つ傾向があり、そのため日本産個体群を固有種や固有亜種とする見解もあるが、この特徴だけで日本産個体群を明確に識別するのは困難。

### 【分布の概要】

広義の *P. sinensis* とされる種は、ベトナムから中国大陸沿岸部、台湾、朝鮮半島、日本本土、ロシア極東地域にかけて東アジア一帯に生息する。国内では本州、四国、九州に広く見られるが、東北地方以北で再生産できるかどうかは不明。南西諸島は移入。県内では平野部を中心に広く生息する。

### 【生息地の環境／生態的特性】

完全な淡水性。中・下流域の底が砂泥質の河川、池、沼等に生息する。貝類、甲殻類、水生昆虫、魚類などを捕食する。6～8月に8個～50個の卵を産卵する。

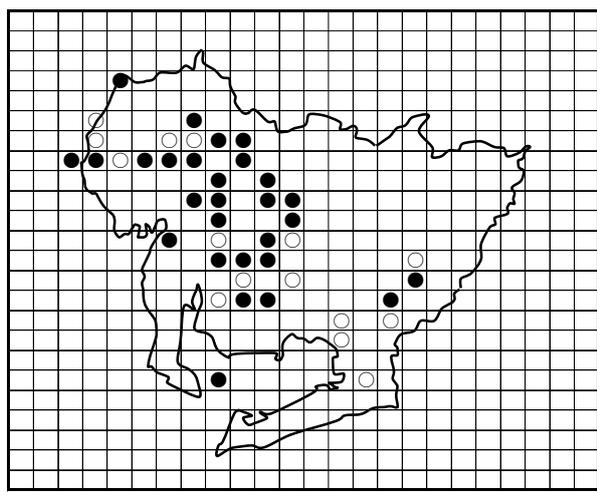
### 【現在の生息状況／減少の要因】

本種は、その地点のカメ相の優占種となることはあまりないが、県下の平野部の河川や池では決して稀な種ではない。しかし、本種は本県においては広く養殖され、多くの個体が逸出している。そうした外来の集団が、在来の集団に対する生態的な圧迫を加えたり、交雑による遺伝的な汚染を引き起こしている



岡崎市, 2013年8月2日, 島田知彦 撮影

県内分布図



可能性が高いが、現状ではその実態はよくわかっておらず、その動向に注視する必要がある。

### 【保全上の留意点】

カメ類は陸上で産卵することから、産卵場所の維持は不可欠である。生息場所から上陸可能な環境の整備が必要である。

### 【特記事項】

大陸産の種を、中国中南部からベトナムにかけて生息する *P. sinensis* と中国東北部から朝鮮半島、ロシア極東にかけて生息する *P. maackii* に分ける考え方もある。日本本土に生息するスッポンを遺伝的に解析すると、後者に近い遺伝子型を呈する個体が多い一方で、前者の遺伝子型も散見される。このことから、日本の在来の集団は *P. maackii*、またはそれに近い系統群であり、後に交易等の人為的な要因で *P. sinensis* が持ち込まれたものと考えられるが (Suzuki and Hikida, 2014)、両者は既に交雑を起こしている可能性が高く、単純な切り分けは難しい。

### 【引用文献】

Suzuki D. and T. Hikida, 2014. Taxonomic status of the soft-shell turtle populations in Japan: a molecular approach. Current Herpetology 33: 171-179.

(島田知彦)